

## 有名人のサイン

豊澤 幸平

現在、野球のワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が開催されている。野球ファンにとっては待ちに待ったビッグイベントで大谷翔平も来日。東京ドームの試合前に、子供からボールにサインをせがまれ彼は快く応じていた。この情景がテレビで放映されていたが、子供にとっては忘れられない思い出、一生の宝物になる。

実は私も有名人のサインを結構多く持っている。コレクターではないが、軽いノリ、若干軽薄であるが有名人に会ったことの嬉しさから貰っている。

宝物の中で有名度からいえば、小澤征爾（指揮者）、J・R・フォード（アメリカ第三十八代大統領）、松坂慶子（女優）、糸井重里（コピーライター）、堺雅人（タレント）、D・ジーター（野球のニューヨーク・ヤンキースの名遊撃手）。所謂おっかけでなく、街、レストラン、バー、空港待合室、飛行機の上で偶然見かけた際をお願いしている。出会い頭でもらうので、メモ用紙、レストランの箸袋、紙のコースター、紙切れに書いてもらう。一番最近ゲットしたのは、二月に梅沢富美男（歌手、タレント）、新横浜駅の緑の窓口付近。

それらの中で特に印象に残っているのは小澤征爾。一九九三年にドイツ・デュッセルドルフからスペイン・マドリッドに出張で向かう機上で出くわした。タイミングをみてお願いすると、「お名前は」と聞かれ、私の苗字とともにサインをもらった。ちらっと見えた靴下が真っ赤であったことを今でも鮮明に覚えている。なぜ真っ赤であるかを後年知った。

今までお願いして断られた経験はない。理由を私なりに分析すると、タイミングをみて声をかけた、短くシンプルにお願いした、礼儀正しくお願いしたことが功を奏したのであろう。有名人からすると、応援をしてくれる人へのお礼や感謝、ファンサービスの一部と考え、割合気楽な気持ちで書いてくれたのだろう。

とはいえ、私のような人間にも嫌な顔をせず気配りするとは、有名になることも大変かもしれない。

（二〇二六年三月）